

# 「大坂の史跡を訪ねて」連載19回目

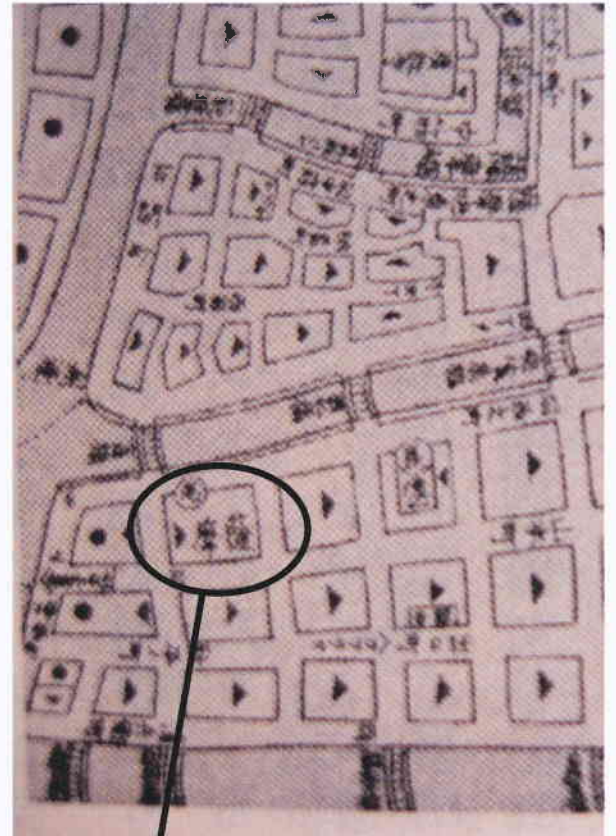
～西区周辺 その2～

オサタニ ヨシハル  
長谷 吉治

## 1 薩摩藩蔵屋敷（下屋敷）跡

西区新町4-12

▶ 薩摩藩の大坂蔵屋敷には、上屋敷・中屋敷・下屋敷がありました。そのうち、上屋敷と中屋敷は、「大坂の史跡を訪ねて」の連載11回目でご紹介させていただきました。念のため、場所をもう一度ご紹介しますと、上屋敷は西区土佐堀2-3(現 三井倉庫)、中屋敷は、西区江戸堀3-6-49(現 マンション)で、両方とも石碑が建っています。さて、下屋敷を今回ご紹介いたします。残念ながら石碑はありません。下屋敷は、西区立売堀西の町(現在は西区立売堀5丁目)にあり、日生病院より南に100mほど行ったあたりに該当します。(下記写真)以前、立売堀川が東西に流れており、その川に架かる高橋の南詰めにあり、古地図でも確認できます。



薩摩藩蔵屋敷(下屋敷)  
文化3年の古地図より

薩摩藩蔵屋敷（下屋敷）跡



## 2 宇和島藩蔵屋敷跡 3 宇和島橋跡

西区北堀江1(堀江食堂前)

▶ 長堀通りという幅の広い通りがありますが、ここは昭和39年以前は、長堀川という川でした。その川に架かっていた橋に「宇和島橋」という橋がありました。かつてこの橋の南詰めに宇和島藩邸があったことから、「宇和島橋」という名がつけられました。また、この宇和島橋から南は、最近注目を集めている街堀江です。水知悠之介著の「大阪堀江今昔」では、この宇和島橋より南に伸びる道の東西に芝居小屋があり、お芝居が興行されていたと述べられています。



- ▶ 2の「宇和島橋跡」より西へ100m行ったところにあります。  
このあたりは、長堀川があった頃、「富田屋橋」という橋が架かっていましたが、間長涯はこの橋で天文観測を行なっていました。間長涯は、質屋を営む大坂商人であり、暦学者、天文学者でもあります。間長涯は、天文暦学を麻田剛立に学びます。寛政7年(1795)、これまで使っていた「宝暦暦」が、かなりの時間のずれ(約6時間)が生じていた事により、幕府は、暦を改訂すべく麻田剛立を江戸に招こうとします。しかし、麻田剛立は老齢のため、弟子だった間長涯と高橋至時が江戸に派遣され、「寛政暦」を作り上げる偉業を成し遂げます。この「寛政暦」は、明治期に改められるまで用いられます。今では当たり前のことですが、間長涯らは、日食の日などを予測できたようです。後に、日本地図を作った伊能忠敬は、江戸に派遣された間長涯、高橋至時に師事を受け、多大な影響を受けています。



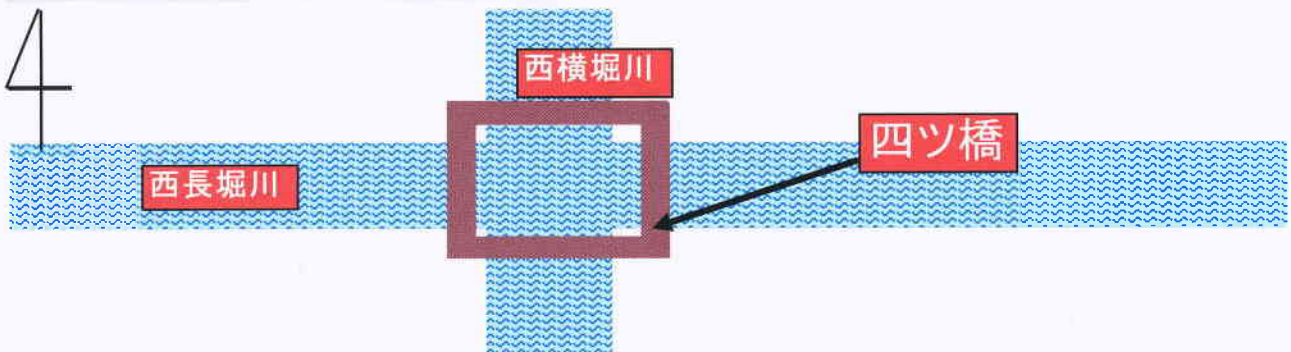
## 5 四ツ橋跡

(西区北堀江1丁目 四ツ橋交差点)

- ▶ 以前、南北に流れる西横堀川と東西に流れる長堀川とが、十字に交差する場所がありました。現在の横断歩道のように、その交差する場所の四つ角すべてに橋が架かっており、大阪名所のひとつとなっていました。四つの橋とは、上繫橋、下繫橋、吉野屋橋、炭屋橋です。道路の交差点はどこでも見られますが、川の交差点は本当に珍しいもので、今は、川が埋め立てられ地名が残るばかりです。



四ツ橋の古写真



## 6 藤井藍田 玉生堂跡

(西区南堀江3丁目 高台橋公園内)

- ▶ 「大坂の史跡を訪ねて」の連載2回目 新選組ゆかりの地にてご紹介しましたが、勤王学者だった藤井藍田は、新選組に捕えられ、大坂屯所である万福寺において拷問により獄死しました。藤井藍田は、文化12年(1815)阿波で生まれました。幼い頃から父と共に大坂に移り住み、藍染めの店「綿屋」を開きました。広瀬旭荘から学問と詩を学びますが、広瀬旭荘の攘夷思想の影響を受け、諸国を歩き勤王倒幕の志士たちと交わります。特に吉田松陰とは交流が深かったようです。安政3年(1856)に「玉生堂」という塾をこの地に開きます。勤王倒幕の浪士の溜まり場になったため、藤井藍田は慶応元年(1865)4月26日、新選組に捕えられます。激しい拷問の末、5月12日獄中で息を引き取ります。墓も粗末に扱われたようですが、明治5年、統国寺(天王寺区茶臼山)に改葬されます。大正3年に正五位が贈られ、藍田の墓の隣に贈位記念碑が建てられています。



## 7 勸進相撲興行の地

(西区南堀江3丁目 南堀江公園)

- ▶ 堀江中学校前の南堀江公園内に碑があります。案内板には、  
「承安4年(1174)に朝廷の相撲節会が廃止されたあと、相撲は武士の娯楽として、主として武家屋敷内で続けられてきた。これにたいして、興行としての勸進相撲は、風紀を乱すという理由で、江戸幕府により禁止されていた。しかし、元禄ごろには、勸進相撲についての緩和の方向に向いてきた。元禄12年(1699)には京都で天王社修復を理由に許可されたのをはじめとして、延享4年(1747)には特に理由がなくても勸進相撲を興行する事が許可された。大阪では「摂津名所図会大成」によれば元禄5年(1692)に南堀江高台橋橋通、すなわちこのあたりで興行されたのが最初と伝える。一方、「堀江御開発旧記」によると元禄15年(1702)に、堀江橋通3丁目で興行されたのがはじまりという説もある。のち宝暦年間(1751~1763)ごろには、江戸(春・冬)、京都(夏)、大阪(秋)で四季八日の勸進相撲が定例化した。」と記されています。



## 8 紀州藩蔵屋敷跡

(西区南堀江2-5 堀江中学校付近)

- ▶ 南堀江公園の向かいにある堀江中学校とその周辺に、幕末期には紀州藩の蔵屋敷がありました。連載17回目でご紹介しましたが、紀州藩蔵屋敷は土佐堀川沿いにもありました。(中央区北浜東5 近畿郵政局内)  
明治4年の廃藩置県により各藩の蔵屋敷が没収されますが、明治5年、この紀州藩蔵屋敷跡地に高台(尋常高等)小学校が建設されます。現在の堀江中学校がそれです。  
堀江中学校の北東角には「高台小学校跡」の碑があり、その中に「元紀州候邸跡」という文字が見られます。  
大正10年(1921)6月には、紀州徳川家の当主である徳川頼倫が来校しています。

徳川頼倫(1872~1925)は、紀州藩最後の藩主だった徳川茂承の家を継ぎ当主となります。侯爵。政治家。

江戸期に二度、田安家当主をつとめた慶頼(家茂後見役)の三男で、徳川宗家を嗣いだ家達、更には、田安家を嗣いだ達孝は実兄にあたります。

明治40年、元紀州徳川家の家督を相続。宗秩寮総裁等などの要職を務めました。



「元紀州候邸跡」が記されている

高台小学校跡碑(堀江中学校北東角)

次回もぜひご期待ください。